

会 議 録

名 称	令和4年度第1回目黒区男女平等・共同参画審議会
日 時	令和4年6月3日（金） 午後6時30分～午後8時10分
会 場	オンライン開催（目黒区総合庁舎地下1階第19会議室）
出席者	（委員）神尾、小出、小林、田中、薬師、片渕、久保、齊藤、佐藤、池田、川越、平林、干場 （区側）区長、総務部長、人権政策課長、事務局
傍聴者	なし
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・目黒区男女平等・共同参画審議会委員名簿（令和4年6月1日現在） ・目黒区男女平等・共同参画審議会運営要綱 ・令和4年度 目黒区男女平等・共同参画審議会 予定表（案） ・目黒区男女平等・共同参画センター事業記録（令和3年度版） ・目黒区男女平等・共同参画オンブーズ年次報告（令和3年度） ・であいきらり第73号
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 区長挨拶 3 出席者紹介及び役員選出 4 諮問 5 審議会運営について 6 情報連絡会（審議会・オンブーズ・区の情報交換） 7 その他 8 閉会
会議の結果及び主要な発言	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 <ul style="list-style-type: none"> ・定足数、傍聴者の確認 ・資料確認 2 区長挨拶 3 出席者紹介及び役員選出 <ol style="list-style-type: none"> (1) 区出席者紹介 人権政策課長が区出席者を紹介した。 (2) 委員自己紹介 各委員が順番に自己紹介した。 (3) 会長選出 互選により神尾委員を会長に選出した。 (4) 副会長選出 互選により小出委員を副会長に選出した。 4 諮問 諮問「『目黒区男女平等・共同参画推進計画』の進捗状況の評価について」 5 審議会運営について

- (1) 所掌事項等について
審議会の所掌事項等について、条例及び要綱を基に人権政策課長が説明した。
- (2) 今年度の予定について
人権政策課長が次の内容を説明した。
- ・今年度前半では、本日の諮問に基づき審議会で令和3年度分の事業評価を行っていただくこと。
 - ・今年度後半では、4月から開始した新計画の事業評価方法等について審議会で検討していただく予定であること。
- (3) 小委員会の設置について
会長が小委員会の設置と、小委員会で答申書案を作成した後、審議会で答申内容を検討すること、小委員会に関する次の事項について併せて提案した。
- 小委員会の名称：事業評価小委員会
付託事項：推進計画の進捗状況の評価
付託期間：令和4年9月末日まで
- また、事業評価小委員会の委員として、会長が神尾・小出・久保・平林の4委員を指名した。
- 6 情報連絡会（審議会・オンブーズ・区の情報交換）**
- (1) 令和3年度 男女平等・共同参画審議会年次報告（審議会）
審議会が主に次の内容を報告した。
- ・令和3年度は、前半では令和2年度事業の事業評価を実施し、後半では区の推進計画の改定案について審議を行った。
 - ・令和元年度は感染症の影響で区民意識調査が実施されなかったため、2年ぶりに区民意識調査結果も踏まえた事業評価を行った。
 - ・令和2年度分の評価は大項目4が☆4つであり、それ以外の大項目1～3は☆3つという評価だった。
 - ・大項目の評価は前回と同様だが、中項目別の評価では変化があった。
- (2) 令和3年度 男女平等・共同参画オンブーズ年次報告（オンブーズ）
オンブーズが自己紹介と主に次の内容の報告・意見表明を行った。
- ・令和3年度中の相談・申出実績はなかった。
 - ・オンブーズという制度が十分に活用されている状況ではなく、今後、制度が認知、活用されることを期待する。
- (3) 令和3年度の男女平等・共同参画関連施策の取組状況等（人権政策課）
人権政策課が主に次の内容の説明を行った。
- ・令和3年度は男女平等・共同参画審議会から事業評価についての答申をいただき、提言等を踏まえて取組を行った。
 - ・推進計画の改定については、当初は令和2年度に行う予定だったが、感染症の影響もあり、前期計画を1年延伸した上で昨年度に改定を行った。
 - ・計画改定に当たり、当審議会でも多くの議論をいただき改めて感謝する。
 - ・男女平等・共同参画センター事業について、男女平等・共同参画センター

事業記録を使用して令和3年度の取組を報告した。

・令和4年度に実施予定の講座等について紹介した。

(4) 意見交換

(委員) 昨年度途中から開始したLGBT相談について、相談件数はどの程度あったのか。

(区側) 今年1月から開始し、3月までは相談実績がなかったが、今年度に入り1件の実績がある。

(委員) オンブーズの利用実績がないことについて、コロナの影響で相談に行きにくい状況もあると思うが、他の相談事業の状況も踏まえつつどのように考えているのか。

(区側) 男女平等・共同参画センターで実施している相談についても、対面によるものは少なくなり、電話による相談の割合が増えている。法務省が行っている人権侵犯事件の件数も減っており、担当者からも対面による相談ができなかった影響が考えられると聞いている。オンブーズについては、どのようなことが相談できるかを紹介するホームページのコンテンツを更新し、より分かりやすくなるように工夫したが、すぐに件数の増加に結び付くような状況には至らなかった。今後もPRには力を入れていきたい。

(委員) オンブーズについて、男女平等・共同参画や性の多様性尊重に当てはまる内容の相談でないとするのができないのが現状だが、例えば介護・福祉分野においては、ヤングケアラーや8050問題という問題もあり、どこにも相談できていない状況の方々がいる。共生社会の実現に向けたそのような問題の相談を広く受け付け、内容によってより専門的な相談先を紹介するような窓口になっていただくことは可能なのだろうか。

(オンブーズ) 積極的な活用に関するご意見は貴重なご意見であり、拝聴したい。以前に母子家庭の子どもの問題について相談があり、それは子どもの貧困に関連するものであった。ひとり親世帯の貧困に関する問題は父子家庭にも起こり得るものであるが、そのときは母子家庭ということで女性問題の一環として対応した経緯がある。他にも例えば介護は女性の負担割合が多く、女性の就労や自身の人生を生きる上で問題があるという認識でご相談をいただければ、検討させていただくことは可能である。

(オンブーズ) コロナ禍でDVが増えているという印象を持っている。DVなどにより身の危険に晒されている方は自身の権利を守るために離婚や仮処分などの対応が必要な場合も多く、オンブーズとしてすぐに対応できる部分が少ない点については忸怩たる思いもある。ただし、区の担当者は優秀であり、様々な窓口への相談を適切な相談窓口につないでいただけるので、まずはご遠慮なくご連絡いただきたい。

(委員) コロナワクチン接種の関係もあり、区ではLINEの活用が進んだと思うが、オンブーズ関連についてはLINEで情報発信したことはある

	<p>か。</p> <p>(区側) 何か変化があったときは発信しやすいが、そのような状況ではないときにどのように発信していくかについては、現在研究しているところである。</p> <p>(委員) 区報が全戸配布になったため、オンブーズ特集をしてもよいと思う。</p> <p>(区側) タイミングを含めて検討したい。</p> <p>(委員) 区報に加えて、Y o u T u b eでも発信し、L I N Eと併せて活用すると広がっていくのではないか。</p> <p>(区側) 媒体にはそれぞれ特性があるので、適した方法でどのように発信していくかについて総合的に検討していきたい。</p> <p>(委員) 相談したい人はたくさんいると思うが、男女平等・共同参画センターで活動している仲間内でもオンブーズについて知らない人が多かったので、やはり宣伝が足りないのではないか。</p> <p>(委員) 相談件数がゼロという状況なので、どのように広報していくかがポイントである。</p> <p>(委員) せっかくオンブーズという素晴らしい取組があるので、認知に課題はあるが、制度自体は続けていただきたい。時間をかけてでも周知の取組を続けてほしい。</p> <p>(委員) 全体的な話になるが、推進計画において具体的な数値目標がない点が気になっている。スマートゴールのような基準に準じた目標以外は目標とは言いにくい。区の計画の目標は色々と検討を重ねて設定されたことが伺えるが、理念やビジョンを細分化したものになっており、具体的に達成すべき数値目標にはなっていない印象である。私の考え方はやや偏っているかもしれないが、現在の計画書に掲載されている数値目標は数値目標とは言えないのではないか。色々な経緯があって現在の形になっていると思うが、意識調査の結果を目標にすることには違和感がある。</p> <p>(委員) 今年度後半では、来年度以降の評価方法について審議会が独自に設定する目標についても検討するため、またご意見を伺いたい。</p> <p>(委員) 目黒区の審議会では毎年評価を行うような特色のある取組がなされているが、そのような点のPRはしているのか。</p> <p>(区側) 男女平等・共同参画週間など、機会を捉えてパネル展示やホームページ等でPRはしているが、従来の方法では足りないことも認識している。様々な媒体を駆使して効果的なPRができるように研究していきたい。</p> <p>(委員) 相談は多い方がよく、少ないからよくないというのは判断ができないが、難しい相談について対応できる体制をどのように作っていくかが課題である。相談でどこまで解決できるかは分からないが、相談できる体制を作っていくことは重要であると考えている。</p> <p>(委員) 相談がないことを実績がないとして捉えるか、相談に至るほどの問題がなかったと捉えるかの判断は難しいところである。相談内容は必ずしも深刻なものばかりではなく、少しだけ相談したくて訪れたというケー</p>
--	--

スもあり、件数だけでは分からない部分もある。まずはそのような窓口を用意しておくことと、何かあったときに相談してもらいやすい雰囲気づくりを普段から心掛けておくことが前提になると思う。実績がないからやめてしまうのではなく、周知が足りなければ努力をしていくべきであるが、たくさん相談があることが必ずしもよいこととは限らないため、注意深く評価していくべきである。

(委員) オンブーズに苦情処理機関と記載されているが、少し違う印象である。オンブーズという名称自体が認知されている状況ではないこともあり、何の機関だかよく分からないという印象を持たれてしまっているのではないか。

(オンブーズ) 区民の皆さんはオンブーズに相談することについて敷居が高いと感じているのだと思う。このような人達が相談を受けているということを顔を見せてPRするなどの取組を積極的に行うとよいかもしれない。そのような記事や写真提供などには協力したい。

(委員) 相談することは勇気が要ることであり、自分が追い込まれている状況に気付いていないこともある。オンブーズという枠組みを超えてよろず相談のような形で様々な内容の相談を受けられるようにし、そこから振り分けを行うようにできたらよいと思う。目黒区では福祉のコンシェルジュという窓口を福祉総合課が担っているが、オンブーズには弁護士もいるという点でまた違った相談対応ができると思うので、そのような形で相談を受けられるようにすると活路やオンブーズの意義を見出せるのではないか。

7 その他

事務局が次の内容を説明した。

- ・次回審議会の開催時期 8月下旬頃
開催日時については、後日、日程調整を行う。

8 閉会

以 上